

令和5年度第1回

幸手市総合教育会議議事録

招 集 期 日	令和5年7月11日(火) 午前11時00分
開 会 場 所	幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A
開 会 の 日 時	令和5年7月11日(火) 午前11時00分
閉 会 の 日 時	令和5年7月11日(火) 午後0時2分

出席 状 況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	市 長	木村 純夫	出席	教育委員	高島 勝也	出席
	教 育 長	山西 実	出席	教育委員	藤沼 寛次	出席
	職務代理者	会田 研司	出席	教育委員	古沢 万友実	出席
	教育委員	岩崎 万紀子	出席			

傍聴人：0人

書記：関口 智章・河口 奈緒

議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名
	総合政策部長	落合和典		
	教 育 部 長	小林秀樹		
	政 策 課 長	中野仁美		
	総 務 課 長	服部道春		
	学校教育課長	堀越成夫		
	政策課主席主幹	大竹孝典		

議 事	顛 末
<p>開 会 午前 11 時 00 分</p> <p>あいさつ</p> <p>日程第 1 協議調整事項 及び報告事項 協議調整事項第 1 号 市内小中学校の今後の 在り方について</p>	<p>教育部長 開会を宣する。</p> <p>市長 あいさつする。</p> <p>教育部長 はじめに、教育委員会として検討した結果を教育長から市長に提出する。 つづいて、市長から「市内小中学校の今後の在り方について」検討を依頼されてからの経過を報告するとともに、「幸手市小・中学校適正規模・適正配置等に関する基本方針」について事務局から説明する。</p> <p>総務課長 教育委員会定例会の協議事項報告の内容を資料に基づき説明する。 《意見交換》</p> <p>藤沼委員 各校避難場所になっている。住民の避難場所であり、学校再編後の跡地利用も踏まえ、解体はしないでほしい。 また、避難場所のトイレ、水や電気、水道管の耐震化などインフラの整備を進めてほしい。特に有事の際に子どもたちがトイレを使えないのは大変な問題であり、再編後の次の問題として先を考えておいてほしい。</p> <p>岩崎委員 市内で検討されている大規模プロジェクトは、東中学校区の人口が減少している地区と重なるところがある。雇用の創出が見込まれることから、例えば耕作放棄地を宅地にできるといい。 また、東中学校にできるであろう義務教育学校が、魅力的な学校として何年かかけて「素晴らしい学校ができた」と言われるような、人が増えるような学校にしてほしい。例えば大規模プロジェクトにあるトレーニングセンターでの農業体験など、教育と一緒に発展していくような方策をお願いしたい。</p> <p>市長</p>

藤沼委員の提案は避けて通れない部分であり、しっかりと詰めていく。

岩崎委員の意見についても、農業だけでなく、人口の問題や産業の発展などいろいろな方向に広げていきたい。農業については、幸いなことに、県知事や県の部長と協議し、こういう形で実り花が咲きつつある。また、産業団地ではカーボンニュートラルの次世代技術研究所が建設されており、地元の子どもたちにも見てほしいと言ってくれている。いろいろな点で、市としてしっかりと取り組んでいく。

高島委員

少子化が進む中で、学校に一定の規模を確保することは難しい。義務教育学校の設置を通し、地域の文化の維持と、新しい時代に向けた魅力的な学校づくりをしてほしい。

義務教育学校は県内でも2校しかない。このような取組を通して、幸手市でも相乗効果でいい教育となることを期待する。

古沢委員

小学校だけ、中学校だけではなく全体を見て、子どもたちが螺旋階段上に成長していくことが大事。子どもたちを育てていくには、先生力が重要。幸手市としてのビジョン・明確な方向性を先生たちが感じ、先生を見て子どもたちが感じていく。最初は産みの苦しみもあるが、乗り越えたときに「幸手市に住みたい」と思ってもらえる形になるといい。

会田職務代理者

各地域に小学校があることが望ましいが、子どもたちのこれからの人数を考えたときに、4校が複式学級になってしまう。地域に小学校があるということと子どもたちの教育に適する人数を考えると、やはり適正な規模に近い人数にしてあげないといけない。スクールバス等を運行して各地域の児童を集めることができるのであれば、基本方針の形が現状では一番いい。

そのうえで、地域のコミュニティや防災拠点としての施設をどういう形でもいいので残してほしい。

教育長

藤沼委員の提案は、教育とは別の問題のようでもあるが、阪神・淡路大震災では、現地では衛生環境の問題もあ

り教育に支障が出た。これも教育と高い連動性のある指摘かと思う。

また、これから進んでいく市の3つのプロジェクトで、新たな未来が見えてきた。これと並行して、教育を充実させて魅力ある幸手を作ることも必要となる。

そのためにも、義務教育学校の魅力ある建設が必要となる。市行政としても、いかに魅力ある学校づくりのための環境を整備、充実させて幸手の目玉を作るか考えていくことは、重要な課題であり、市も共通認識を持っていただきたい。

職務代理者の意見にあったが、地域のコミュニティや母校愛という声が予想される。地域の方にも、学校の小規模化という現状を御理解いただき、まずは小規模校が抱える諸問題を解決し、並行しながらコミュニティや防災拠点をどうするか考えていくことが大切だと考えている。適正化は早期に実現することが重要である。

教育部長

魅力ある学校づくりから、魅力ある街づくりにつなげていくという意見は皆さん一致しているかと思う。

岩崎委員

防災拠点としては、NPOに貸すとか芸術家の活動に使ってもらうなど、カラーを持って利用を継続してほしい。普段は使わずに災害が発生した時だけ使うというのは難しいので。スクールバスのバス停として利用する子どもたちと触れ合う場所としてもいい。学校の雰囲気は独特なものがあるので、教室を使って何かしたいという人を応援できるような場所を考えてほしい。

教育長

時期の問題についてはいかがか。

藤沼委員

早い方がいい。当事者である子どもたちにとっては、今の学校の良さもあるだろうが、義務教育学校という新しいものにワクワクするはず。仮に5年経過すると、小学1年生が6年生になって、ものすごい経験が先に送られてしまう。子どもたちのためにを第一に考えてほしい。

高島委員

今後、行政上の手続きや地域住民の理解を得るための説明もあると思う。難しいことではあるが、子どもたちのために良くしようと考えることなので、多少の支障

<p>日程第2 その他</p> <p>閉 会 午後0時2分</p>	<p>があったとしても少しでも早くできるような方法をとることが必要。</p> <p>教育長 定例会の中でも、方向性が出たら即実践をして即解決に向けていくのが教育だろうという意見であったかと思う。</p> <p>教育部長 市長から一言お願いします。</p> <p>市長 各委員の皆さんからいただいた意見は、看過できない重要な問題であると感じた。これはしっかり受け止めていきたい。</p> <p>全体的なところでは、令和3年8月にお願いした市内小中学校の今後の在り方について、長期にわたり検討していただき、真摯な、濃い内容の報告をいただいた。感謝する。</p> <p>教育委員の皆さんから、タイミングとしては早急にという話が出たが、私は職員に「拙速は巧遅に勝る」と伝えている。パーフェクトになったらでは間に合わないこともあるので、必要であればやれることをやって、修正が必要であれば修正する、まさに同じことが学校再編にも言えると思う。時機を逃すことなく、市長として教育委員の皆さんと緊密な連携をとりながら、しっかりと進めていく。</p> <p>最後に、国が興るのも、街が栄えるのも、ことごとく人にある。学校を建て人を育てるという新潟の米百俵の精神がある。こういう話を見つめていく必要がある。抽象的な話だけでは教育論は成り立たないので、足元をしっかりと固めて頑張っていきたい。</p> <p>なし</p> <p>教育部長 閉会を宣す。</p>
--	---

他特に重要 と認める事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和5年8月22日</p> <p>教育委員 高島勝也</p> <p>教育委員 藤沼寛次</p>